



Friendship Tree MAPLE 「また明日」



ここ開智中学校の玄関前。開智生を見守るように立つ1本の楓。秋には枝いっぱい賑やかに大きなメープルの葉たちが鮮やかな黄金色に色づきます。そして今、新たな春に向け、静かに休息の季節を過ごしています。

1995年、アメリカから一人の女子高生が開智高校にやってきました。Jaclyn Shermanさん。彼女はロータリークラブ青少年交換プログラムでウィスコンシン州から来た留学生でした。彼女は1年間開智高校生として、みんなと共に授業を受け、共に行事を楽しみました。音楽部と一緒にホルン奏者としての活動もしました。

この楓は、96年の帰国にあたり、数多くの思い出と友情の記念として、彼女が開智の庭に植樹してくれたものです。



...それから20年。小さかった苗木は、多くの開智生たちの成長を見守りながら、楓自身も6mのMaple Treeに育ちました。毎年秋が来るたびに美しく装い、私たちを楽しませてくれます。立派になった楓の写真を受け取ったColoradoの彼女から、メッセージが届きました。



"It was the year upon which the rest my life hinges, I believe.

It was incredible and the year and the friendships are treasures."



それは私の人生のなかで最も特別な1年だった

忘れがたい思い出 そしてその1年と友情は私の宝物



東ミシガン大学で教育心理学を学んだ彼女は今、2人の子どものママとしてColorado Arvadaで暮らしています。

アメリカからやってきた少女によって植えられた1本の楓は、毎年、開智の庭に鮮やかな彩りを添えてくれています。毎朝、笑顔で登校してくる開智生を、Friendship Treeが温かく迎えます。そして、下校する彼らの安全を見守るように「また明日。また明日。」



今、春を待つ楓に灯りがともりました。



世界との交流の歴史の中でともった温かな光から「また明日。また明日。」

やがて世界の大海原へとはばたくであろう彼らの未来を見守る Friendship Tree MAPLEのささやきが聴こえます。